

## 第2章 国際金融安定性報告書

### 世界の銀行システムの脆弱性に関する新たな観点

本章は、今も高インフレーション・高金利が続く環境の潜在リスクに着目しながら、世界の銀行が抱える脆弱性について最新の評価を提示する。公開されているデータと地域間で統一した手法に基づくこの評価は、詳細な監督データに基づいて当局が実施する同様の取り組みを補完することを目的としている。この分析は、(1) 2023年3月の銀行の混乱から教訓を得て強化した世界的なストレステスト、そして(2) 銀行における脆弱性の発生をリアルタイムに監視するために、広範な市場データとアナリスト予想を組み込んだ重要リスク指標から構成されている。

世界的なストレステストでは、2023年10月の「世界経済見通し」におけるベースラインシナリオのもとで、世界の銀行システムが幅広く強靭性を保っていることが示された。ただし、先進国の多くの銀行が、保有証券の時価評価や引当金の計上を行うことで、潜在的に多額のキャピタルロスを抱えていることも判明した。

深刻なスタグフレーションを想定した悪化シナリオにおける世界的なストレステストでは、広範に渡る銀行で多額のキャピタルロスを特定した。その中には、中国、欧州、米国の複数のシステム上重要な金融機関が含まれている。

以上の結果は、2023年3月末時点で米国と欧州の銀行が最大級のストレスを抱えていたことを警告する重要リスク指標と一致している。アナリストのコンセンサス予想に基づく重要リスク指標によると、米国では12月末の時点で多数の小規模銀行がリスクを抱えていると予想される。米国以外では、アジア、中国、欧州でもリスクが高まっており、期待収益の減少や株価純資産倍率の低迷が将来的なストレスを示唆している。

本章では、リスク評価用の分析ツールを強化すること、重要性の高い市場評価指標を注視すること、そして小規模銀行も含めた詳細かつ厳密なストレステストを行うことを訴えている。さらに、監督の実施にあたっては当局による介入力を強化し、タイムリーかつ実効力のある形で是正措置を実施していくことも肝要である。また、金利リスクに対して保有する資本の健全性基準を引き締めるべきである。銀行は、ストレス下で満期保有目的債券を売却した場合のキャピタルロスを大きく緩和するために、中央銀行による資金供給ファシリティへのアクセスが可能な体制を整えるべきである。

報告書全文は、こちらの英語版をご参照ください。

<https://www.imf.org/en/Publications/GFSR/Issues/2023/10/10/global-financial-stability-report-october-2023>